

企業タイプ別成長戦略から解明した同族企業の特徴

株式会社帝国データバンク
産業調査部 先端データ分析サービス課

はじめに

同族・非同族に関わらず、企業成長は最も重要な経営課題の一つであり、様々な戦略が存在します。このとき企業の成長戦略は、企業の中にある経営資源を活用して成長する内部成長（Internal growth）と、企業の外にある経営資源を活用して成長する外部成長（External growth）の二つに分けて検討がなされます。例えば M&A は外部成長の代表的な事例です。

同族企業においては、第三者からの影響を受けなくなかったり、企業規模の拡大よりも経営効率の改善等による利益率の向上を目的にしていたりといったことから、外部成長を好まない傾向にあるといわれてきました。また創業者の場合は、そもそも保有している経営資源が少ないことから、外部成長を検討する段階にない場合も少なくありません。

以上を踏まえ、本研究では未上場企業を含む約 47 万社の企業データに対し、経営の視点から 7 タイプに、所有の視点から 3 タイプに企業を分類します。そして、タイプ別に内部成長と外部成長の程度を比較することで、同族・非同族それぞれの経営戦略の違いを統計的に解明します。

データについて

まず、本研究で用いたデータについて説明します。企業データには、帝国データバンクが保有している企業信用調査報告書（2016 年 1 月時点分）を用いました。このとき、代表者の就任経緯から、企業を経営タイプとして 7 カテゴリ（創業者、同族継承、買収、内部昇格、外部招へい、出向、分社化）に分類しました。さらに、筆頭株主情報から、企業を所有タイプとして 3 カテゴリ（個人、企業、その他）に分類しました。表 1 がこの件数分布となっており、創業者・同族継承の場合は個人所有が多く、内部昇格・外部招へい・出向の場合は企業所有が多いことが分かります。一般的に認知されているように、同族企業においては経営と所有が分離しづらい傾向にあります。

表 1. 未上場企業約 47 万社の経営タイプおよび所有タイプ別の件数

		所有タイプ			
		個人	法人企業	その他	合計
経営タイプ	創業者	193, 079	–	–	193, 079
	同族継承	167, 298	12, 187	–	179, 485
	買収	6, 589	1, 924	289	8, 802
	内部昇格	35, 650	15, 666	5, 033	56, 349
	外部招へい	5, 618	4, 709	1, 188	11, 515
	出向	–	9, 397	1, 035	10, 432
	分社化の一環	5, 486	2, 401	551	8, 438
	合計	413, 720	46, 284	8, 096	468, 100

経営タイプ別の企業の特徴

まず、経営タイプ別の企業の特徴を売上高や創業年数、そして代表者の年齢分布を観測しました。図 1 が経営タイプ別の企業の売上高分布となります。企業の規模を表す売上高や従業員数、取引先社数等はベキ則に従うことが報告されていますが、これを経営タイプ別に観測しても同様の分布が得られます。そして、同族企業となる“創業者”や“同族継承”は、それ以外の非同族企業に比べ、全体的に規模の小さい企業が多いことが分かります。

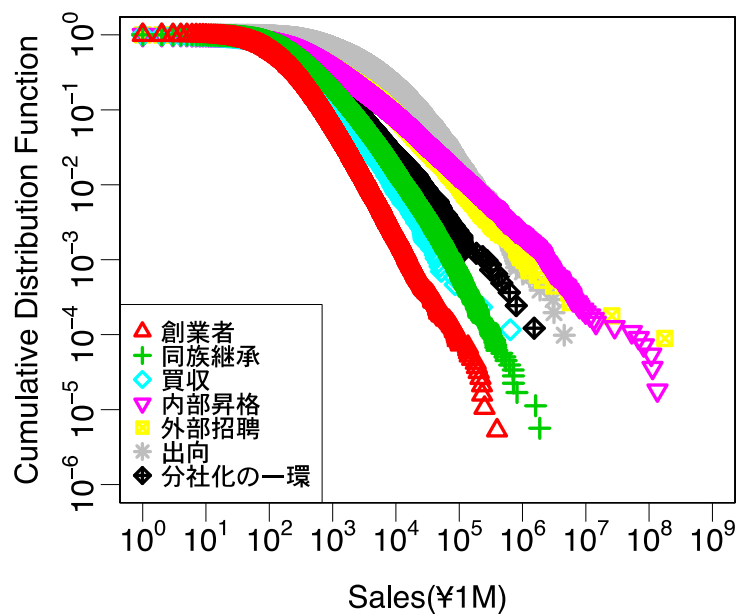


図 1. 経営タイプ別の企業の売上高分布。累積分布を両対数軸にプロット。

次に、経営タイプ別の創業年数分布を観測しました。代表者が創業者であったり、買収や分社化により就任したりした企業においては、その経緯により創業年は全体的に短い傾向にあります。一方、“同族継承”の企業は創業年数が長い傾向が観測できます。図1の経営タイプ別の企業の売上高分布においては、“同族継承”の企業は創業者の企業等と同様に規模が小さい企業が多くありました。図2のように、企業は創業年数に対して指数関数的に成長することが報告されています。つまり全体傾向として「新しい企業は小さく、古い企業は大きい」傾向が存在しているのにも関わらず、創業年数が長い傾向のある“同族継承”の企業においてはこの限りではありません。先にも述べた通り、必ずしも企業規模の拡大を優先的な経営目標としない同族企業の性向が観測される結果となりました。

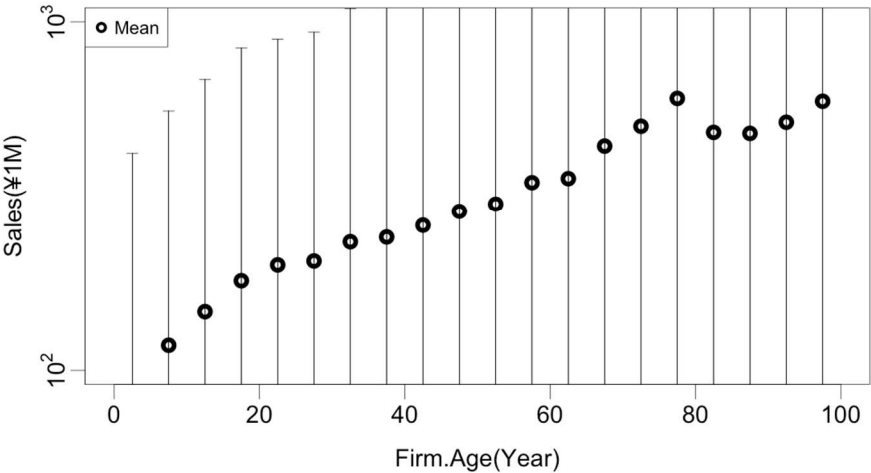


図2. 創業年数と売上高の関係。片対数軸にプロット。

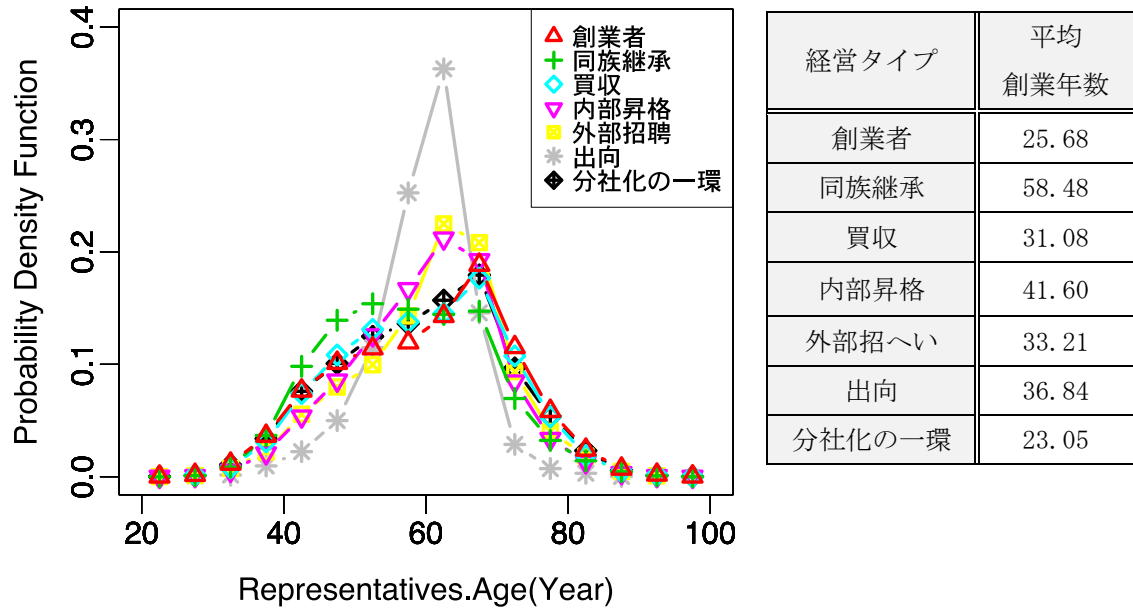


図3. 経営タイプ別の創業年数分布。確率密度分布をプロット。

さらに、経営タイプ別の代表者の年齢分布を観測しました。全体的には 60 歳前後が平均となり、経営タイプ別に大きな違いはありませんが、“出向者”が経営者の場合は分布の尖度が他タイプと比較して非常に大きくなっています。“出向”により代表者に就任した人の多くは、親会社や取引銀行などからベテランの役員・管理職等が派遣されたものと推測されます。

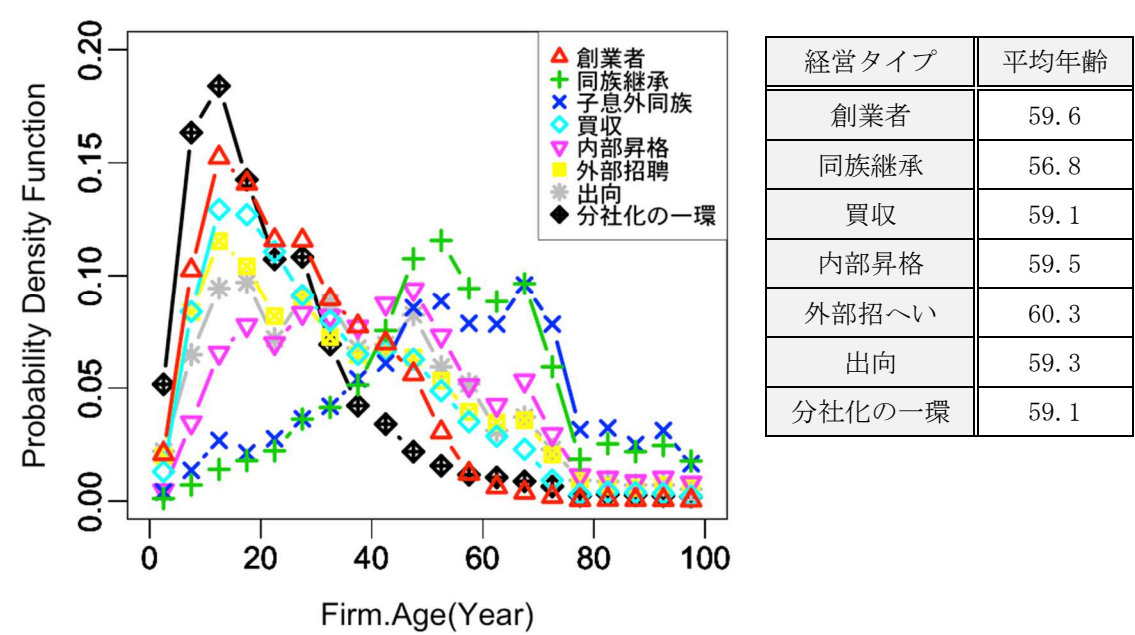


図 3. 経営タイプ別の代表者の年齢分布。確率密度分布をプロット。

外部成長度合いの比較

次に、先にも述べた通り、外部成長の代表的な事例である M&A のデータを用いて、同族企業の内部成長性向を検証しました。具体的には、経営タイプ別に合併経験のある企業割合を算出しています。表 2 がこの観測結果となります。非同族企業と比較して、同族企業においてはこの割合が低く、外部成長性向が弱いことが分かります。

表 2. 経営タイプ別の合併経験のある企業割合

経営タイプ	同族企業	非同族企業
全企業数	367, 251	93, 822
合併経験のある企業数	10, 551	9, 968
合併経験比率	2. 9%	10. 6%

まとめ

本稿では、未上場企業を含む約 47 万社の企業データを対象に、代表者の就任経緯から企業の経営タイプを分類しました。そして、この統計的性質を観測することで、同族企業は外部成長戦略の代表例である M&A を好まないことや、“同族継承”の企業が創業年の長さに比べて企業規模が小さいことより、成長することを望んでいない可能性が高いことを定量的に検証し、同族企業の経営戦略が外部成長よりも内部成長にあることを示しました。一方、同族企業といっても、創業者が代表者を務める一代目の企業とそれ以外では性質が異なります。特に一代目の企業においては、その創業年の短さからくる企業規模の小ささより、内部資源で企業成長を企てるしかない状態にあることが推測されます。よって次稿では、創業者が代表者を務める企業に着目し、その統計的性質を解明していきます。

参考文献

- 沈政郁. (2014). 血縁主義の弊害: 日本の同族企業の長期データを用いた実証分析. *組織科学*, 48(1), 38-51.
- Berle, A. A., & Means, G. G. C. (1991). *The modern corporation and private property*. Transaction publishers.
- Takayasu, M., Sameshima, S., Ohnishi, T., Ikeda, Y., Takayasu, H., & Watanabe, K. (2007). Massive Economics Data Analysis by Econophysics Methods—The case of companies' network structure. *Annual Report of the Earth Simulator Center April, 2008*.
- Miura, W., Takayasu, H., & Takayasu, M. (2012). Effect of coagulation of nodes in an evolving complex network. *Physical review letters*, 108(16), 168701.

備考

本研究は京都産業大学大学院経済学研究科の沈政郁准教授（https://www.kyoto-su.ac.jp/graduate/g_ec/kyoin/shim.html）との共同研究であり、成果の一部は日経電子版「新・同族経営」に連載されています。